

RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018 Masters Historic Formula Oneレース 出場マシン第2弾 決定のご案内

2018年11月17日（土）・18日（日）に鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）で「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018」を開催いたします。

本イベント内で行われ、東アジア初となる注目イベント「Masters Historic Formula One」公式レースの出場マシン第2弾として、新たに5台のマシンの参戦が決定いたしました。

「Masters Historic Formula One」レースには、今回発表するマシンを含む約20台のマシンが出場予定で、その他の出場マシンは決定次第ご案内いたします。

Masters Historic Formula Oneレース 出場マシン Vol.2

1974 March 741 [Fittipaldi Class]

＜解説＞ 基本的にF2の742と同じモノコック、コンポーネンツを使用することを前提に設計されたマーチの74年用マシン。主にワークスのヴィットリオ・ブランビラ、ハンス＝ヨアヒム・シュトゥックがドライブしたが、シルバーストーンで行われた非選手権では、高原敬武が日本人として初めてF1に出場、完走を果たしたマシンとしても知られている。マスターズUSAシリーズで活躍するニック・コリバズのシャシーナンバー741-1は、シュトゥックのレーサーとして南アフリカGPで5位、スペインGPで4位に入賞したヒストリーをもっている。



1974 Lotus 76 [Fittipaldi Class]

＜解説＞ ドライバビリティの改善のため、ヒューランドFG400に電磁クラッチを組み合わせたセミオートマ・システムを採用。さらにクラッチ操作から解放された左足専用のブレーキペダルを追加するなど時代を先取りしたアイデアを盛り込んだ1台。しかしながら熟成は進まず、非選手権を含め7レースを走っただけでお蔵入りとなった。アンドリュウ・ビューモントの76/1（JPS9）はドイツGPでロニー・ピーターソンが4位に入った経歴の持ち主。発表当時の姿にレストアされているが、ギヤボックスは通常の3ペダルMTとなっている。



1976 Lotus 77 [Fittipaldi Class]

＜解説＞ 1976年に富士スピードウェイで開催されたF1イン・ジャパンで優勝したことで有名な1台。当初はトレッドとホイールベースを調整できるアジャスタブル・サスペンション、インボード・ブレーキなど、独創的過ぎるメカニズムを採用していたが、フロント・サスをプッシュロッドからアッパー・ロッキングアームに、ブレーキをアウトボード式にするなど様々な改良を施すことで、戦闘力が向上した。アメリカのクリス・ロックの所有する77は、3番目のシャシーにあたるJPS14。マリオ・アンドレッティがオーストリアGPで5位入賞を果たした。



1976 Penske PC4 [Fittipaldi Class]

<解説> インディヤCan-Amで活躍していたアメリカの名門ペンスキー・チームが、1976年シーズン用に開発したオリジナルカー。ダンパーをインボードマウントしたフロント・サスペンション、高さを抑えたアルミノコック、コクピット背後のインテイクなど空力性能の向上を意識した独自のアイデアを採用。フランス、イギリスGPで連続3位入賞を果たしたほか、第11戦オーストリアGPではジョン・ワトソンがチーム唯一の優勝を飾るなど高い戦闘力を示した。ダグ・モケットのPC4は、オーストリアで優勝したシャシーナンバー001である。



1974 LOLA T370 [Fittipaldi Class]

<解説> シャドウDN1を購入し73年からF1参戦を開始したグラハム・ヒル率いるエンバシー・ヒルが、自チーム専用のマシンとしてローラに依頼して製作したT370。F5000マシンのT332をベースに開発され、その巨大なインダクションポッドは“インダクション・ウォール”と揶揄された。ヒルと期待の新人、ガイ・エドワーズがドライブするも成績は振るわず。ジェイミー・コンスタブルが所有するシャシーナンバーHU1はヒルのレースカーだった個体で、スウェーデンGPで6位に入るといってT370唯一の入賞記録をもっている。



RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINEとは

1962年に日本初の本格的な国際レーシングコースとして開場した鈴鹿サーキットは、2012年に50周年を迎え、次の50年に向け新たなスタートをきりました。鈴鹿サーキットは、この歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるために、モータースポーツが持つ貴重な歴史にスポットライトを当てた本ヒストリックイベントを、2015年より開催しています。

なお、本イベントの前売チケット（大人1日券：2,500円、2日券：3,500円）は、9月23日（日・祝）より販売いたします。

Masters Historic Formula Oneとは

3リッターエンジンを搭載し、1966年から1985年に製造されたF1マシンを使用するMasters Historic Formula Oneは、グラウンドエフェクトの有無、年式などによって四つのクラスに分けられ、ヨーロッパ内でシリーズ戦が行われています。2017年の「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2017」では、同時に11台のヒストリックF1マシンがデモンストレーションを行いました。